

# 総合的な交通政策を進めるための人材育成の取り組み

特定非営利活動法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾

(略称：NPO 法人再生塾)

## 1. なぜ総合的な交通政策がすすまないのか？

我が国では、総合的な交通政策を標榜する地方自治体も増え、自治体や都市圏の交通計画が策定されてきたものの、その多くは必ずしも実現しているとはいえません。

総合的な交通政策が必ずしも進まない要因として、計画すべき対象範囲が必ずしも行政区域とは一致しないこと、交通に関する関係者が多岐にわたり、それらの総合調整が容易ではないこと、地方自治体が必ずしも公共交通に対する運行責任や許認可権限を有していないことなどがあげられますが、何よりも、関係主体間の課題の共有化や信頼関係が構築されておらず、結果として連携・協働が十分でなかったことが指摘できます。

行政と交通事業者が連携し地域の交通を確保しなければ立ちいかない状況となってきたなかで、行政と交通事業者が日常的に情報交換できる環境がなく、行政担当者は3年、5年といった人事異動サイクルにより、交通を専門としない職員が次々と入れ替わる状況では、相互に信頼関係を構築することは困難でありましょう。

また、地方自治体では、大学で交通を学んだ職員でも最新の交通政策を体系的に学ぶ機会が乏しく、それ以外の職員になると、職務を通じた教育機会も十分には整っておらず、自己啓発に頼るしかないのが実情です。たしかに、交通行政の関係者間では、国が主導する担当者会議や中核市における新・交通システム研究会など自治体間の情報交換や要望活動をする組織が存在しますし、交通事業者が集まり情報交換を行う枠組みも存在し、学識経験者の講演を通じて交通政策の世界の潮流や国内の先進事例の把握に努めてはいますが、いずれも断片的なものであり、実務者が交流する場や交通を体系的、継続的に学ぶ機会は存在しないといつてよいと思われます。民間分野においても受託業務を通じてのOJTの他はセミナー、講習会、学会への参加など自己啓発に任せているのが現状でしょう。

このように公共交通に関連する実務者が交流する場や交通を体系的、継続的に学ぶ機会が存在しないことは、相互理解や信頼関係の構築が進まない大きな要因の一つと指摘できるのではないのでしょうか。

## 2. 再生塾をはじめよう！

京都大学の故北村隆一先生は、21世紀に入って、ヨーロッパの各都市で進められている持続可能なまちづくりや都心のにぎわいの創出、世界各地での公共交通再編の世界的潮流、そしてソウル市における劇的な交通整備の進展を目のあたりにし、なぜ日本ではこのような交通環境改善が進展しないのかという問題意識を持たれました。

北村先生は総合的な交通政策を実現するためには、関係者が有用な理論的・実践的情報を共有し、かつ「ビジョン」「夢」を持つこと、そして“総合”交通政策を推進できる人を育てることが大切であるという認識のもとで、大学、コンサルタントで活躍するメンバーを集め、関西の主な交通政策実務者達もここに加わることとなりました。

2007年1月からメンバーが集まり議論を重ね、地方自治体を中心に、都市・交通政策に携わる実務者の人材育成と交流の場として“塾”の創設に取りかかることとなり、2007年度から早速塾を立ち上げたのです。

初めての塾は、2008年8月から2009年1月までの全6回の研修会として構成し、講師による話題提供、参加者による話題提供に基づく質疑と意見交換を行いました。

参加者の募集は、講師陣が参加する各種メーリングリストを活用し、27名が参加することとなりました。その内訳は行政7名、コンサルタント等11名、交通事業者5名、大学等3名でした。

2007年度の参加者からは、主催者の意図していたように様々な立場のメンバーによる本音の話ができる場の提供に対する評価を得る一方で、レベルに応じた塾の開催を求める意見や実例を対象としたワークショップなどでさらに掘り下げた議論がしたい、行政への具体の提言をしたいという声が寄せられました。

これらの意見を反映して、2008年度からは、交通分野の経験が比較的浅い実務者にも理解ができる内容の「基礎編セミナー」と基礎編修了者及び交通分野に一定の実務経験を有するメンバーを対象とする「アドバンスド・コース」の二つのコースを開催することとしました。また、2010年からは、地方自治体の議員を対象とする「公共交通セミナー」を開講しています。

### 3. 塾の主な活動

#### (1) 「基礎編セミナー」

「基礎編セミナー」は、交通政策や交通技術に関する基礎的な知識の習得を目指す行政担当者、交通事業者、コンサルタント等を対象として、持続可能なまちと交通を進めていくための基礎知識と考え方をわかりやすくレクチャーします。また、グループワーク等を交えて問題意識を共有し、課題解決に向けたアプローチについて、様々な角度から意見交換します。

	氏名	所属
理事長	北村 隆一	京都大学大学院
副理事長	土井 勉	神戸国際大学経済学部
理事	中川 大	京都大学大学院
同	正司 健一	神戸大学大学院
同	本田 豊	兵庫県
同	東 徹	社団法人システム科学研究所
同	大藤 武彦	株式会社交通システム研究所
監事	村尾 俊道	京都府

	開催日時	場所	参加者数
第1回	2008年8月9日(土), 10時～16時	エルおおさか 南101会議室	49人
第2回	2009年8月8日(土), 10時～17時	ドーンセンター 特別会議室	43人
第3回	2010年6月12日(土), 10時～17時	新大阪丸ビル新館 6F会議室	42人
第4回	2011年6月11日(土), 10時～17時	ドーンセンター 特別会議室	60人

表3 「基礎編セミナー」の構成(2011年度の例)

- ・講義1 まちづくりと交通政策概論
- ・講義2 公共交通の経営  
～ 昼食 ～
- ・グループワーク(対話)1  
持続可能なまちと交通—私の問題意識
- ・講義3 公共交通活性化・再生の実践
- ・グループワーク(対話)2  
持続可能なまちと交通—課題解決に向けて
- ・まとめと総括



写真1 「基礎編セミナー」の様子

(2) 地方自治体議員を対象とした「公共交通セミナー」

地方議員を対象として、公共交通サービスが十分とはいえない自治体、路線バスの赤字問題や路線バスの縮小・廃止問題を抱える自治体、コミュニティバスを実施中または計画中の自治体、中心市街地の活力低下が問題となっている自治体、観光振興をめざしたい自治体など、地域が抱える諸問題に対応した交通政策の基本的な考え方や先進事例、計画手法等について、わかりやすくレクチャーします。また、様々な課題解決に向けて、講師との質疑応答を通して理解を深めます。

表4 地方自治体議員対象「公共交通セミナー」開催状況

	開催日時	場所	参加者数
第1回	2010年5月24日(月), 10時～16時	第15長谷ビル2階 会議室(四条烏丸)	42人
第2回	2011年6月10日(土), 10時～16時	エルおおさか視聴覚室	18人

表5 地方議員対象「公共交通セミナー」構成

- ・講義1:自治体における公共交通政策総論
- ・講義2:公共交通政策の実践  
～ 昼食休憩～
- ・意見交換  
「持続可能なまちと交通—わたしの問題意識—」
- ・講義3:公共交通政策の財政と負担
- ・ディスカッション、QandA  
「持続可能なまちと交通—課題解決に向けて—」
- ・まとめと総括

### (3)アドバンスド・コース

アドバンスド・コースは、基礎編修了者及び数年程度の実務経験者を対象として、実際のフィールドでのケース・スタディを通して実践的な研修を行うものです。フィールド提供団体には、事前に再生塾が趣旨説明を行い、データ等の情報提供と最終報告会への同席を依頼しました。

参加者は20名以内で、行政、コンサルタント、交通事業者などが混在するグループを構成し、経験豊富なラーニング・ファシリテータ（以下LFという）と意見交換をしながら、自らが課題を設定して対応を検討し、フィールド提供団体に対して具体的な提言を行う形式を採用しています。毎回の検討結果は、研修会の全体場で発表し、参加者相互に質問を課すことで、個々のプレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めるようにしています。

各グループは、中間報告、最終提言に向け、E-mailを活用した意見交換や定例の塾以外にも自主的にミニワークショップなどを開催し、グループ別に最終アウトプットをとりまとめ、最終回では、提言と意見交換を行っています。また、それぞれのグループでは、全員に役割（リーダー・進行・書記・発表）が当たるように4～5名のチーム編成とし、LFが各チームを見守ることとしています。ここで、LFは、チームが効果的に機能しているかをチェックし、うまく機能していなければ介入し、参加者の気づきを促すような質問により、課題発見、課題解決を参加者相互の対話を通じ行う補助者となります。

	参加者数	開催時期	フィールド
第1期	17人	2008年8月～12月	大阪市交通局、京福電気鉄道嵐山線、京都府京田辺市
第2期	13人	2009年8月～12月	大阪府富田林市、京都府京田辺市
第3期	20人	2010年8月～12月	兵庫県川西市、叡山電車



図1 アドバンスド・コースのカリキュラムと研修の様子

#### 4. アフター再生塾

再生塾の活動は、セミナーや塾だけにとどまっていません。

まず、アドバンスド・コースでは、報告会終了後、フィールド提供団体との意見交換会や、地元ヒアリングなどが開催され、提案の一部は、実際の施策に反映されているものもあります。

また、塾生 OB の交流も活発です。塾としては、アドバンスド・コース修了生には、基礎編及びその懇親会、アドバンスド・コース報告会へのオブザーバ参加を案内しており、多くの OB が参加をしています。さらに、塾生 OG である再生塾女子部を中心としたイベントなども随時開催されるようになり、塾への参加を通して交流が広がっています。

分類	活動概要
フィールド提供団体との意見交換	・2009年度：京田辺市，京福電鉄(嵐電)意見交換会
	・2010年度：富田林市，京田辺市意見交換会
	・2011年度：川西市，叡山電鉄意見交換会
	大和団地，清和台団地住民ヒアリングと意見交換
各種学会での発表	・2009年：土木計画学研究発表会(春大会)発表
	・2010年：土木計画学研究発表会(春大会)発表
	WCTR(リスボン)発表
	・2011年：土木計画学研究発表会(春大会)発表
再生塾女子部を中心とした活動	アドバンスド・コース塾生OGを中心とした「楽しく学ぶ」企画
	・2011年：新年合宿
	加西市遠足(北条鉄道，史跡，ハッピーバス視察など)
他団体との連携	・関西交通政策実務者懇話会
	・京都大学大学院工学研究科「低炭素都市圏政策ユニット」
	・京都大学大学院工学研究科・医学研究科「安寧の都市ユニット」
	・「地域と交通をサポートするネットワークin Kyushu(Qサポネット)(計画中)
OB交流事業	・塾修了生の交流の場を設けています。
	基礎編，懇親会への参加
	アドバンスド・コース報告会へのゲスト参加 など

#### 5. 再生塾のこれから

再生塾参加者の終了後のアンケートを見ると、改革意識の高い多様な関係者間で一緒に議論ができ、ネットワークが作れたことにまずは大きく評価しています。また、立場は違っても、まちや公共交通を良くしたいという「思い」を共有化できたこと、グループで学習することで多くの気づきが得られたこと、考える力や学習意欲が高まったことなどの回答がよせられています。


各グループは、アドバンスド・コース終了後も交流を継続し、翌年度にも継続参加する塾生もでており、主宰者側の期待を大きく上回る結果となっています。

再生塾の人材育成手法は参加者からの声に基づき、①実務者の相互理解を進め信頼関係を構築する必要があるという強い社会的要請、②参加者の高い満足度を得られる互学互修という高い知識定着、③多様な知識や技術が求められる課題を乗り越える組織力を高めるチーム学習、そして④塾生の学習を手助けする充実した LF の存在といった優れた特徴を有するものとなりました。

再生塾の活動により、交通政策を総合的に学ぶ場と関係者相互の交流の機会は確保されつつあります。今後は、さらに、地方自治体等が日常的に相談できる機能の確保を模索していきたいと考

えています。

再生塾では、塾の活動を持続あるものとするために、2009年2月に特定非営利活動法人(NPO)の認証を受けました。塾の活動内容については参加者の評価も高く、社会にもその成果を還元しているものの、組織も財務体質も極めて脆弱であり、再生塾の趣旨に賛同する会員が故北村隆一先生の想いを実現するため、ボランティアで支えているのが実情です。更なる人材育成活動を展開することは必ずしも容易ではありませんが、人材が活躍できる環境が広がることは、我が国における総合的な交通政策を実現するために大いに期待されることであり、着実に各方面の人材のネットワークを広げていきたいと考えています。



業務などでは考えざるを得ない、様々な制約をとっばらった、自由なディスカッションができました。目から鱗がいっぱいでした。

交通は、まちづくりと一体的に交通を考えないといけないということが、みんなで調査を行いながら、強く感じました。

課題発見から地域特性を生かした提案まで、たくさんの人と議論して検討していくことで、多くの気づきがありました。

- ◆同じ志を持つ、色々な人たちとの【出会い】・・・「新たな交流ができた！」
- ◆知識・考え方等の【習得】・【再確認】・・・「こんな世界があるなんて…」
- ◆議論・意見交換等による様々な【気づき】・・・「余計なお世話では？」  
→ 今は良いかもしれないが、10年後は…  
「結局、何がしたいのか良くわからない」  
→ 課題に立ち返ろう！
- ◆熱い議論等による【モチベーションの向上】・・・「これからまだまだ頑張ります！」
- ◆研修全般を通じて【考える力・意識の醸成】・・・ふだんの仕事を離れての贅沢な時間  
チーム全員再生塾中毒に？

図2 アドバンスド・コース参加者の声とまとめ

#### 【問合せ先】

特定非営利活動法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾(略称:NPO 法人再生塾)

〒532-0011 大阪市淀川区西中島7丁目1-20

Phone: 06-61001-7001, FAX: 06-6101-7002, E-Mail: [kaiin@saiseijuku.net](mailto:kaiin@saiseijuku.net)

HP: <http://www.saiseijuku.net/>

Blog: <http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/RedirectServlet?npouURL=machikotsu>